

平成 22 年 1 月 14 日



各 位

会 社 名 株式会社ドトール・日レスホールディングス
代 表 者 名 代表取締役社長 星野 正則
(コード番号 3087 東証第 1 部)
問 合 せ 先 取締役 木高 毅史
(TEL:03-5459-9178)

業績予想修正に関するお知らせ

株式会社ドトール・日レスホールディングス(本社:東京都渋谷区猿樂町 10 番 11 号、代表取締役社長:星野正則)は、平成 22 年 2 月期の第 3 四半期の業績結果及び外食業界を取り巻く経営環境等を踏まえ、平成 21 年 10 月 15 日付「平成 22 年 2 月期 第 2 四半期決算短信」において公表いたしました平成 22 年 2 月期(平成 21 年 3 月 1 日～平成 22 年 2 月 28 日)の連結業績予想を下記の通り修正いたします。

記

1. 平成 22 年 2 月期の連結業績予想の修正

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	106,490	10,734	11,059	5,519
今回修正予想(B)	100,330	8,890	9,328	4,244
増減額(B-A)	△6,160	△1,844	△1,731	△1,275
増減率	△5.8%	△17.2%	△15.7%	△23.1%
前期比増減額	△3,637	△539	△521	206
前期比増減率	△3.5%	△5.7%	△5.3%	5.1%

前期実績(平成 21 年 2 月期)	103,967	9,429	9,849	4,038
--------------------	---------	-------	-------	-------

2. 業績予想修正の理由

当期につきましては、政府の景気対策や輸出の持ち直しなどから景気の悪化に底打ちの兆しは見られるものの、企業業績の低下や雇用環境の悪化から先行きが不透明な厳しい環境が続いております。外食業界においても、所得の減少など景況感を反映した消費者の生活防衛意識が急速に高まって個人消費は急落、外食を控える傾向が一段と上昇しております。

このような環境の中、当社では、新業態の開発やメニューの刷新、ポイントカードの導入など既存事業への施策のほか、韓国コーヒー飲料事業への進出やベーカリー事業への参入など事業領域の拡大に努めたものの、当初見込んでいた計画に対し、高単価業態を中心とした既存店売上の回復が遅れており、当期については厳しい環境が続くと予想されることから、業績予想を修正したものです。

以上

* 上記予想については、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後さまざまな要因により予想数値と異なる可能性があります。